

埼玉大学経済学部同窓会

経和会会報

第4号

2001年5月24日発行

発行 埼玉大学経済学部同窓会
経和会会長 伊藤 正昭
編集 副会長 中野 恵永
さいたま市下大久保255番地
TEL 048-858-3281

平成13年度 経和会総会のご案内



創立50周年を記念して創られたモニュメント

21世紀初頭の総会を 大学キャンパスで

従来センチュリーハイアットホテルで実施してきた経和会総会を、本年は大学キャンパスで開催します。

『卒業以来大学を訪れたことがない』あるいは、『北浦和校舎時代の卒業生で、現キャンパスを知らない』といった同窓生も少なくありません。移転したばかりの大学はひどく殺風景でしたが、すでに30年の歳月を経て敷地内の樹木もすっかり大きくなり、建物も次々と増築されました。新築の経済学部棟も立派で、北浦和の木造校舎しか知らない古い卒業生にとっては隔世の感があります。

遠方のためウィークデー開催は無理と考え、土曜日に大学の施設を借りることといたしました。同窓生やゼミ仲間と二次会という方には、北浦和に懐かしいお店も健在のようであります。お誘い合わせの上、この際は非大学キャンパスでの総会にお出かけ下さいますようお願い申し上げます。

「平成13年度 経和会総会」

- 日時** 平成13年7月7日(土)
総会ならびに講演会 14時より *モア亭*
懇親会 15時30分～17時30分
- 場所** 埼玉大学大久保キャンパス
(さいたま市下大久保255 TEL048-858-3281)
●総会・講演会「経済学部504講義室」*奥山先生*
●懇親会「大学会館」
- 会費** 5,000円 (当日会場受付にて)
- 交通** JR京浜東北線「北浦和駅」より埼玉大学行バス15分または埼京線「南与野駅」より埼玉大学行バス10分 (タクシー利用の場合、南与野から1000円程度)
- 出欠** 同封のハガキにて「6月20日」までにご回答下さい



「脚光浴びる東京ステーションカレッジ」

埼玉大学経済学部長 貝山道博

どの国立大学も、「独立行政法人化」を前にして、10年、20年先を睨んで、あるべき姿を模索しています。どの大学もどういふ点で高い評価を得ようとするのか、何よりもそのことを明確にしなければなりません。所謂大学の個性化・差別化が求められています。

埼玉大学経済学部は、高齢化・少子化時代の到来を睨み、社会人の能力開発、社会人研究者の養成に焦点をあて教育研究を行っていくことが、社会的ニーズを満たし、地域社会に積極的貢献していく道であるという認識のもとに、平成5年4月に高度専門職業人養成を主目的とする昼夜間講義制の大学院修士課程「経済科学研究科」を新設しました。同時に、経済短期大学部と合併し、学部にも社会人を対象とする夜間主コースを新設しました。

どんな組織でも少なくとも、5年後には見直しを図らなければならないというのが、世の鉄則であると思います。案の定、大学院設置後5年目の入試で競争率はピークに達し、以後不況の影響もあってか、次第に低下していきました。そこで、数年前から大学院の抜本的改革を検討してきましたが、その結論が「東京ステーションカレッジ」(以下、TSCと略称)の開設です。

閉塞状況のいかんにして打破すればよいのか。首都圏における社会人大学院に対する需要は大きく、増大しつつつけているはずなのですが、授業料の安さという国立大学が持つ優位性にもかかわらず、それが本大学院の競争率に反映されない。こうした低迷状況の原因として、次の2つを指摘できます。①埼玉大学のロケーションの不味さ。②時代に適合しないカリキュラム。

①について少し説明します。平成



東京ステーションカレッジ 授業風景

5・11年度入試で本大学院を受験した人の45%程度が東京に勤務しており、埼玉県に勤務する人の38%を上回っています。東京都心に勤務している人が浦和と大久保にある埼玉大学キャンパスに来るまでに、約1時間半を要します。社会人の通学の利便性を優先させるなら、我々がお客様のところ(東京)に向くべきでありましょう。その上、東京には底知れぬ潜在的需要がありますから、東京への進出はこうした需要を掘り起こし、顕在化することになるはずで

②については、IT革命及び金融ビッグバン等の急激な社会経済環境、特にビジネス環境の変化を踏まえて、カリキュラムを抜本的に改革する必要があると考えました。大学で純粋培養されてきた我々は理論については自信を持っていますが、理論の応用面、実践面では必ずしもそうではありません。理論と実践の融合による教育研究という本大学院の設立趣

旨をより徹底させるためには、カリキュラムを現在及び近い将来の社会のニーズにマッチするように改善すると同時に、実践面をより強化するため、大々的に外部の一線で活躍している一般の実務家の方々に教育研究スタッフに加わっていただく必要はならない。幸いにも、これまで本学スタッフが培ってきた人的ネットワークを通じて、官界からは旧大蔵省、旧金融監督庁、旧通産省、旧経済企画庁及び日銀の現役・OB官僚、外資系金融機関現役管理職等々の方々に客員教授や非常勤講師として招聘することができました。

また、カリキュラムそのものの改革ですが、ニーズが高い分野については、「企業経営と労働」、「経済発展と公共政策」両プログラムとして残し、後は新しいニーズに対応するため一新し、「国際ビジネスと金融」、「ビジネス複雑適応戦略」両プログラムに改めました。

新設の2プログラムは、東京都心に勤務するビジネスマンの需要が圧倒的に多いことから、東京サテライトで行うことにしました。外部のスタッフはこの2つのプログラムのみ関わります。彼らは都心に勤務しているため、彼らの通学の便宜を図るためにも、東京にサテライトを設置することは有益です。

さて、そうなること、具体的に場所の選定をしなければなりません。可能な限り通学に便利がよく、しかも借料の安いところをというところで、我々スタッフを総動員して方々探し回りました。経済学部同窓会(経和会)の方々にも度々相談ののついでにいただきました。諸先輩方のビジネス人としてのご経験からすれば、この構想を成功させるためには、日本の中心である東京駅から可能な限り近

いところでなければならぬということでした。やっとの思いで、現在東京三菱銀行八重洲口支店が同居している「東京八重洲口会館」ビルに最適なフロアーを見つづけることができた。東京駅八重洲北口から八重洲地下街に入ってまっすぐ東に直進して徒歩1分、地下2階にある広さ50坪という物件です。

TSC開設は平成12年4月ですが、その以前からいろんなマスコミに取り上げていただきました。現在までの新聞、雑誌の取材、掲載は35件以上、テレビ、ラジオの取材、放送は10件近くに上ります。まさに、TSCは社会現象化していると言っても過言ではないと思います。想像を超える世間の反響の大きさに我々も驚いています。

大学の評価も市場に社会に委ねざるを得ない時代です。市場が必ずしも常に正しい評価をくだすとは言いませんが、市場を無視することは犯罪的行為となりましょう。教育

成果上がるインターンシップ

経済学部教授 菊池英雄

研究の自主性を確保しつつ、経営を含めて大学をどのように自立させていくか、これがこれから大学が直面しなければならない課題ですが、その前に社会にその存在が認知されなければなりません。TSCの成功の可否が、埼玉大学経済学部の将来を決定的に規定することになります。世間の反響が大きいに、我々の責任は重大です。TSCでのビジネス人の能力開発、研究支援を通して、日本経済の活性化にお役に立ちたいという我々の試みは、博士課程の設置をもって完成すると考えております。そのためにも、社会から高い評価を得て、これまでに以上の社会の皆様にはサポーターになっていただくかなければならないと思っております。

日本経済はグローバルな競争が激化する中、かつてない厳しい不況に直面しており、埼玉大学経済学部学生の就職状況も年々厳しさを増しております。この一方では、若者達の価値観の変化や、就職先企業の仕事や現場についての理解が不足していることなどもあって、早期退職をする学生が増えています。

インターンシップは、欧米の大学では、学生が就職体験をすることで、企業の現場を知り、自らの個性や可能性(素質・適性・潜在能力など)を認識する機会として、広く普及しております。が、埼玉大学でも、このような厳しい環境に対処して、今年も、とりわけ埼玉県と経和会の皆様のご協力をいただきまして、インターンシップを行い、大きな成果をあげられましたことを深く感謝致し

研究の自主性を確保しつつ、経営を含めて大学をどのように自立させていくか、これがこれから大学が直面しなければならない課題ですが、その前に社会にその存在が認知されなければなりません。TSCの成功の可否が、埼玉大学経済学部の将来を決定的に規定することになります。世間の反響が大きいに、我々の責任は重大です。TSCでのビジネス人の能力開発、研究支援を通して、日本経済の活性化にお役に立ちたいという我々の試みは、博士課程の設置をもって完成すると考えております。そのためにも、社会から高い評価を得て、これまでに以上の社会の皆様にはサポーターになっていただくかなければならないと思っております。

さて、埼玉大学経済学部では、11年度から正規の授業として、インターンシップを実施いたしております。11年度には、関東経済産業局の広域インターンシップに参加し、情報関連企業を中心に6企業で、9名の学生がインターンシップの体験をしました。さらに12年度には、前年度に引き続き情報関連企業に、新たに埼玉県庁、大手食品スーパーなど地元有力企業のほか、内藤保険サービス株式会社、株式会社アイネットなどを協賛いただき、夏休み中に10機関で26名の学生がインターンシップを体験させていただきました。そして10月17日には、参加期間中の「作業日誌」と「企業実習報告書」をもとに、インターンシップ実行委員会が単位認

定のための個人面接を行いました。さらに11月7日には、埼玉県や受入れ先企業の皆様にもご参加いただき、インターンシップ参加報告会を開催いたしました。参加学生たちは、インターンシップに参加して、新しい自分を発見したり、職場への理解を深めたり、人材ネットワークを広げたり、さらには新たな問題意識での学習や研究への意欲を高められるなど、得たものが非常に大きかったと、受入れ先の皆様のご苦勞に深く感謝しておりました。また、受入れ先の皆様からも、「実施の際には、受入れ現場と学生のお互いのニーズを知り、カリキュラムを作成し、業務内容やスケジュールの調整することなどの苦勞はあったが、教えることは教わることで、若い人達の職業観を再認識したり、社内の活性化などに役立った」、さらには、「埼玉大学には優秀で素直な大学生が多いのでアンケートへの回答をいただきました。もちろん、2週間という短い期間でのインターンシップにおいて企業と参加者のニーズをびつたりと満たすことに、多くの困難が伴っていることも事実でございます。お互いのニーズを明確にして、マッチングを適切に行う必要がありますが、参加者が多くなるにつれてますます重要になるように思われ、インターンシップ実行委員会の責任の重さも感じさせられております。

ともかくも、埼玉大学経済学部では、今後さらにインターンシップを発展させ、地域社会との交流の輪を広げます。今後も深く、多くの学生が在学中に自治体、企業などで多様な就職体験をし、自己を知り、職場を知る機会をさらに充実してゆくことができるよう、さらなる努力を重ねて参る覚悟でございます。

最後になりましたが、経和会と会員の皆様からいただきました支援、ご配慮に深く感謝申し上げます。インターンシップのご報告とさせていただきます。

(インターンシップ実行委員長)

終身会費の納入について

会長 伊藤 正昭

平成12年度中(12年4月1日、13年3月31日)に終身会費を納入された方々のお名前は下記の通りであります。ご協力に対する感謝と、ご入金の確認の意味も含めてお名前を掲載させていただきます。ご承知のように経和会では活動のための資金を会員の皆様からの終身会費をもって賄っております。年会費とした場合、収納のための手数料と費用がかかる上に、回収率も良くないという傾向があり、また会員の立場からしても毎年送金しなくてはならない煩わしさがあります。そこで当会は一度の納入で済む終身会費の方式を採用することとしたのであります。会員の皆様のご協力によりまして着々と基金が蓄積されつつあります。お除きまで必要最低限の会活動に支障のない金額となり、大学側からの資金面での要請にもある程度応じられるようになりました。この貴重な資金につきましては慎重かつ有効に管理するべく、役員一同気を引き締めて対処して参る所存であります。しかしながら経和会は活動を本格化してから歴史が浅く、他大学の同窓会に比較しても資金面、活動面でかなり見劣りする状況にあります。例えば経和会にはまだ常設の事務局がなく、役員の奉仕活動と大学当局の協力に頼っているのが現状であります。今後必要最低限の設備と管理運営のための専従者を確保する必要がありますし、生き残りがかかっている大学への物心両面にわたる支援も一層充実して参らねばなりません。そのためにはまだまだ資金が不足しており、会員の皆様のご協力が必要であります。会費未納の方には振替用紙を同封いたしましたので何卒現状をご理解いただき、終身会費2万円の納入にご協力下さいますようお願い申し上げます。

終身会費納入の方々(敬称略)

平成12年度入金分

新入会員

平成12年入学青木西、浅倉麻里子、阿野山美郷、荒木優治、石丸大志、市川裕介、乾大策、井上創、伊本和明、岩本奈々、内山泰文、宇野麻衣子、遠藤健治、大場義之、小川光祐、小熊隆博、河上一敬、川上陽子、河野寿元、木原真太郎、黒澤純一、児玉絵梨、小林裕一、堀山敬介、佐賀達郎、佐々木綾子、笹木雅生、佐田尾宏樹、佐藤壮也、佐藤康之、霜田晃佑、菅徳胤、菅原宏治、鈴木聡、鈴木晴彦、鈴木秀明、鈴木庸介、須田麻矢、高岡伸吾、高岸良成、高林一也、瀧田葵、館盛隼人、田淵亜由美、醍醐朝和、塚越史雄、塚田三枝、遠山正樹、轟真紀子、虎谷奈穂子、鳥倉彰男、中井勇介、中沢美穂、中村佑一郎、並木竜馬、成田美和子、西尾智宏、西澤由紀、西植茂、西山慧、橋本優一、島山昭士、林亮平、平井大洋、平岡怜子、平田和之、前島博、松岡整、松本誠、三河和宏、三代真裕、宮崎步、望月幸二、安良岡悦子、山口真司、山下瞳美、横井秀介、横尾朋行、渡辺隆之、渡邊雄哉、青木紋子、阿部登、入祥高、加藤美奈、千葉哲、成澤一衛、久次文勝、安達剛、新井圭、新井進一、石井洋介、伊藤美奈、今井康允、宇賀神さちよ、内山喜美子、宇津木紀子、大滝愛子、大津雅幸、大野恵理、大堀傑、大山怜子、奥野誠、加藤大輔、鍋本康彰、蒲生しほり、木村卓、木村友香、栗田守、小池明裕、河野裕之、小口曉法、小々高洋介、小園悠太、小林沙織、斉藤春海、坂本めぐみ、作下裕真、方章良、佐藤敬太、佐藤慎也、佐藤真子、佐藤友紀子、佐野まどか、澤幡麻友子、島田歩、下田健一、新

藤久嗣、鈴木雄士、高山恵里子、田崎哲也、田中俊光、玉川真吾、田村治樹、千葉かおり、塚田千恵、照井健、徳竹寛幸、中島弘貴、仲谷竜介、中山景、南波美芽、西原弘記、野中孝明、羽鳥雅之、日高千歩、廣瀬真由美、福島祐子、福家正人、増田朋子、宮田由実子、森泰輔、森脇弘幸、柳澤真吾、柳澤昇、山中愛、山本恭平、山本健司、山本貴久、湯口かおり、四枝英之、脇田和幸、渡邊恭浩、秋山清、垣内淳、塩入大輔、篠水久美子、高見博充、田村和美、中川輝一、中村亮博、平井清貴、赤瀬庄太、阿部大輔、池島健太、石井麻美子、伊藤雅俊、植田恵理、荏原哲生、大里崇、小川隆史、影山京子、春日裕樹、川上隆、川島絵里、河田佳樹、川村幸男、君塚雪恵、久保田一道、齋藤圭子、佐藤直美、山上浩太、塩沢輝明、七戸聡、柴詠美子、下島亮、東海林陸、城田谷子、菅野真琴、菅原素子、杉原領子、鈴木周平、関一敬、高橋可奈、武田英子、田中綾子、田辺健太、田村由里、富田庸子、中崎航、中村麻里、長正望、永田智成、永田裕子、新堀聖一、西敬子、野尻真理、橋口順子、長谷川和史、平賀康正、平久井尚美、廣瀬依子、星野力也、堀優基、堀合知子、本田かな子、松崎雄、馬淵広祐、三須祥美、皆内健吾、宮下紫野、村田泰隆、目次豊、桃崎華子、桃崎玲子、森井雅子、森山小百合、山田正顕、山本佳代、吉村祐美、渡邊真一、渡辺友美、久芳しげ子、西川健治、松井俊明、三位所尚子、三木章亮、小倉初宏、磯政宏、加藤瑞美子、徳丸智子、松津佳佳、金波水敏、安部薫、大滝雅也、森本和博、高松里実、清水功次、津田明子、木島裕美子、朝野陽子、布施谷徳久、常間地昭子

千葉勝行、平山貴光、藤井三康、増尾賢一、山下格、呂岩、山田皓子
昭28年卒大山修一、関和郎
昭29年卒今井保男、山田志郎
昭31年卒石川貴一、春田國典、松本光正
昭32年卒高園末雄、榎森欣一
昭33年卒斎藤克己、薄田忠夫
昭34年卒紺野稔、佐野忠、田中作義、西片昭五、三田村伸一
昭35年卒中村一昭、平井三郎
昭36年卒 岡崎滋、熊本幸雄、小松寛之、細井宏祐、渡辺聖
昭37年卒庵谷弘治郎、大谷守生、橋元和子、香取重徳、木村浩享、佐々木洋一、田村公一郎、西村克己、吉池清
昭38年卒赤羽正行、清水安衛、白井健夫、深澤弘巨、宮坂彰一
昭39年卒伊藤康之、木村克二
昭40年卒斎藤寛、野口節子、篠田誠之
昭41年卒太田幸一、三瓶勝夫、畑川純
昭42年卒鎌田勝男、菅谷征雄、高橋達夫、吉田祐次
昭43年卒入野勝見、松田吉徳、村山公基
昭44年卒近藤昌史、所勝慶
昭45年卒石川義弘、石田肇、大井洋文、福本欣也、山田清
昭46年卒大竹光、岡安康夫、堀口宣博
昭47年卒磯井健二、月下寒士、永桶二郎、穂原康雄、本間正大
昭48年卒松倉英夫
昭49年卒小松秀子

卒業生

昭50年卒奈良晃昌、松崎良、杉山章子
昭51年卒新井隆、斎藤直行
昭52年卒中上良彦、長澤均
昭53年卒十枝内康仁、八町雅人
昭55年卒相川春雄、三田一夫、鳥海恭司、仲宗根朝賢
昭56年卒関悦子、高橋恒二、増田俊哉
昭57年卒赤堀章、千代川隆治、野口英樹
昭58年卒鈴木昇
昭60年卒神山英章
昭61年卒黒川寿
昭63年卒谷村和美、谷本晋、森剛彦
平元年卒川口真理、斎藤緑
平2年卒小倉正恒、野村透
平3年卒大友真紀、依田美紀、和山由起子
平4年卒大戸謙治
平5年卒高角和道
平6年卒下地正浩
平8年卒栗田幸、小久保徹、畑下知大
平9年卒内田芳弘、堀川博子
平10年卒木村昌彦、高井利記、高松知弘、弘茂吾、宮下忠仁、一宮毅
平11年卒石田慎光、猿谷秀智、有村哲
平12年卒石塚洋介、磯部伸弥、井野辰朗、小川彰子、加賀久路、菅具智、斎藤晋一郎、武藤篤孝、山本公彦
平13年卒金井利恵
平9年卒岡野孝信
平10年卒中村直行
平11年卒田中敏行

大学院

エンジンバラ紀行

前経済学部長 奥山 忠 信

昨年六月から一月までの半年間、文部省の在外派遣研究員としてイギリスのエンジンバラ大学に留学した。エンジンバラはスコットランドの首都、古い街並みにエンジンバラ城とホール・ールド宮殿をもつ世界有数の観光地である。エンジンバラの緯度はモスクワとほとんど同じ。イギリスといっても気候は北欧である。六月に赴任すると、夜の二時を過ぎてはまだ明るく、一時でも薄明かりが残る。そして三時半にはもう明るくなる。白夜に近い状態なのである。



エンジンバラ城から南西に望む街並み

日中の最高気温も八月で二、三度ぐらいい。二、五度を越える街の人々は「どうしてこんなに暑いんだ」と不平を言い出す始末だ。八月から九月はじめにかけてはエンジンバラ祭りが一ヶ月も続き、街のあちこちの会場でははたきさんの演奏会や劇の公演が組まれる。また広場や道端では陽気な大道芸が所狭しと繰り広げられる。

スコットランドがイングランドに併合されたのは一七〇七年である。しかし、イングランドとスコットランドの関係は簡単ではない。スコットランドは現在、独自の議会と首相と課税権をもつ。サッカーの国際試合で統一チームを作ることさえ難しい。街の人はパブのテレビでビールを飲みながらサッカーを観戦するが、国際試合でイギリス代表のイングランドの勝利を望んでいるとは限らない。この反イングランド感情は、半分冗談なのだろうか。異邦人の私には真偽のほどはわからない。

スコットランドの城は、エンジンバラ城をはじめ、イングランドとの戦いの歴史を刻んでいる。イングランドに持ち去られたスコットランド王位継承の際の椅子「運命の石」を、七百年の時を越えて奪還し、エンジンバラ城に収めたのが一九九六年のことである。この移管に当たっては、ブレア首相がエンジンバラのフェッチス・カレッジ（カレッジは中高一貫教育の学校を指す）出身であったことが幸いしたと聞く。

併合後、スコットランドはイングランドに対し二度大きな戦争を挑んでいる。ステュアート王家再興を目指すジャコバイトの乱である。この第二次ジャコバイトの乱（一七四五）の参加者の中に私の研究テーマであるジェームズ・ステュアート（一七一三―一七八〇）がいる。



エンジンバラ城

の高官宛てに貨幣政策の建議書の草稿をしたためている。

エンジンバラ大学の図書館は、多くの貴重な原資料を保管しているが、エンジンバラ大学のステュアートに關しては膨大な手稿を保有しており、この草稿もその一つである。一二〇頁を越える手稿で、厚紙の表紙で装丁されており、他の手稿に比べれば保管状態は悪くはない。私は図書館にもつて手稿を解説し、街を歩いた。夢のように美しい街であった。

エンジンバラ城は堅固で三方が絶壁、難攻不落の天然の要塞である。このエンジンバラ城から現在もイギリス王室が使用しているホール・ールド宮殿に続く道が、通称ロイヤル・マイルズと呼ばれる。この道のホール・ールド宮殿近くのキャノングレイト・カーク（教会）にはアダム・スミスの墓がある。その近くには、晩年を過ごしたパンミュレ・ハウスがあ

スコットランドの貴族である。アダム・スミスの一〇年前に生まれて、スミスの『国富論』の九年前に「原理」と名のつく最初の経済学の書『経済学原理』（一七六七）を刊行し、アダム・スミスの一〇年前にこの世を去っている。第二次ジャコバイトの乱では、スコットランド軍はロンドン近くのダービーまで攻め込んで北し、ステュアートは、そのまゝ一七年間の国外追放にあう。

「誰がやったかを聞いているのではない。床に落ちているものがあれば拾い、汚れがあれば拭きとり、みんなでおフィスを綺麗にしておく」と云って下さるだろう。」

つい声が大きくなってしまいます。この手の注意はもう何回も繰り返していますが、一向に効き目がありません。わたしが率先してゴミ拾いをやっても誰も手伝ってさうりありません。痺れを切らして若手職員に指示すると

「私が出たのではありません」と彼は不服な表情で、しびしび落ちていたクリップや輪ゴムを積み上げる。

「全体的ため、何か不都合があれば気のついた者がすぐ処置する」

「全体の方向を理解して各自が義務

寄稿

診断ニッポン病

S 35年卒 室井 常正 (インドネシア在住)

り、いまでも使用されている。道の中ほどには、イギリス経験論哲学の大成者、デイビッド・ヒュームの像が建てられていて。ヒュームはイギリスではスミスよりも有名で、エンジンバラでは街の中に溶け込んでいる。私の家主が、パーティーで酔って、私の手帳にヒュームの一節を書いてくれたことがある。「一切は幻想だ」と。スコットランドやエンジンバラ大学に關する歴史的な著名人名は枚挙に暇がない。「種の起源」のダーウインもエンジンバラ大学の出身である。スコットランド教会もまた、長老派の流れを汲み、イングランド国教会からは相対的に独立した組織をもっている。

イングランドとの間に敗北したスコットランドは、権威よりも人間精神を重んじ、世界史に冠たるスコットランド啓蒙主義の花を咲かせ、学問の世界をリードしたのである。

を果たし、お互いに声を掛け合う」という感覚はインドネシアの組織活動の中では全く期待できません。組織の中で仲間や部下が間違つたやり方をしているでも外から口出しをしない。失敬が目に見えている場合ですらほっておく。意図的に足を引っ張るという悪気がなくても「あいつの仕事は、あいつの責任」とみんながきわめてクールなのです。

日本式組織風土から離れて、中東や東南アジアで10年以上もこうした異文化に浸っていると、このところ「会社は自分の利益のためにある」と個人の利益を優先させる価値観の方が世界的に普遍性があると思えてきました。最近のニッポン病の病巣も、経済のみならず政治、文化、技

術やスポーツなど、あらゆる組織運営での（日本の非常識）が原因なのかも知れません。

病原の一つは（連帯無責任体制）です。組織全体が強調され過ぎ、構成員である個人が埋没してしまうことです。これでは全体が沈みかけると、個人が責めを負うことが少ないため、踏みとどまる者がなく、ずるずると全体が沈んでしまうことになつていきます。皆が埋没し組織にぶら下つていけば大過なく過せるし、企業側も個性を尊重するより、規格型組織構成員を求めてきたからでしょう。雪印乳業、三菱自動車、プリチーストクタイヤなどの不祥事も、こうした組織の病理がもとになっているように思えてなりません。

さらにへ日本型意志決定方式の限界）です。かつてははやされたボトムアップのコンセンサスは、いまや経営の足を引っ張る手段になり兼ねません。右肩上りの経営上昇期には、販売促進や品質向上に大いに効き目があったものの、反対に減産や人員削減に対してコンセンサスを得ることが出来ません。日産自動車の再建が日本のトップでは困難であったのもうなづけるところです。

でも遅れ馳せながら日本も世界のスタンダードに近づく気配が感じられます。最近のスポーツ新聞のトップは「イチロー」(野茂)「新庄」などが飾り、日本のプロ野球が空洞化しているそうです。いま売れているフレンチやイタリアのシェフ達の成功は、国内の有名ホテルで長年修業した経歴ではなく、ひとりで外国へ飛び出し、自らの感性を磨いて獲得したセンスと技術の日本せる技でしょう。学問の世界でも日本の学舎から飛び出し、その古い因習しがらみから解放されて、ノーベル賞に手が届く発想が生み出されたそうです。大勢とは別の道を選ば、組織にぶら下らずに自己を確立できる、その信念を実行する、そうした人が早く増えて欲しいと願っています。

子孫に夢を!

秩父で「百年の森づくり」

百年の森づくりの会長
経 和 会 副 会 長
内 藤 勝 久

環境の世紀といわれる二十一世紀の初めの年に、私達が取り組んでいる環境ボランティア活動を、皆様にご報告する機会を与えていただき、大変有難く思っています。

秩父の山に源を発し、埼玉県を流れ、最後に東京湾に注ぐ荒川は「埼玉の母なる川」として古くから埼玉県民に親しまれてきました。また歴史、文化、産業、教育など荒川の恩恵は各方面に及び、埼玉県の背骨ともなっております。

私達は学生時代から秩父の山々に登りその恩恵に浴してきましたが、近年乱開発が進み豊かな清流であった荒川は、質量ともに衰退し、見るも無残な姿となっております。

このような状況に心を痛めていた埼玉大学ワンダーフォーゲル部OB会は、創部四十周年を記念して「百年の森づくり」に取り組むことといた

たしました。百年の歳月をかけて荒川の源流域にブナやミズナラなどを植え、緑のダムを建設しようというものです。場所は大学の秩父山寮西の二瀬ダムに裾野を浸す和名倉山の南東斜面で、二度の山火事で焼失した七百haの大滝村有林です。

大滝村や埼玉県のご理解と協力のおかげで、四年前から植林用の作業道づくりに専念してきました。ようやく昨年十月に頂上までのルートが開通し、今年から植林を始める計画です。

昨年この活動は埼玉大学開学五十周年記念の協賛事業に指定され、キャンパス内に情報の発信基地となる「百年の森テラス」が各方面からのカンパにより完成しました。経和会からも多額のご寄付をいただき役員一同意を強くいたしました。ここに改めて御礼申し上げます。



学内に建てられた「百年の森テラス」

昨年の六月、植林を核に学術、環境教育、地球温暖化防止、地域の活性化などを包含する総合プロジェクトとするため、新たに「百年の森つ

平成12年度事業報告

(平成12年4月1日～平成13年3月31日)

- 4月17日 常務理事会
- 5月8日 東京ステーションカレッジ開校式
伊藤会長 中野・内藤両副会長 出席
- 5月30日 経済学部就職セミナー
内藤副会長出席
- 6月13日 理事会(決算・予算・事業計画など)
- 6月14日 経和会会報第3号 発行
- 7月12日 経和会総会 新宿センチュリーハイアットホテルにて
- 11月7日 経済学部インターンシップ報告会
中野・内藤副会長 出席
- 11月13日 経和会オープンゴルフコンペ
- 12月1日 就職セミナー講演
中野副会長
- 1月10日 常務理事会 大学幹部との懇親会
- 3月15日 常務理事会(会員名簿作成・会報編集方針など)
- 3月16日 小池元経済学部事務長 定年退官送別会
副会長・常務理事など4名出席
- 3月26日 経済学部卒業パーティ
伊藤会長・中野副会長・中村常務理事出席

就職戦線「冬の陣」

〈就職相談室より〉

副会長 中野 恵 永

〓長びく〓冬の時代

バブル崩壊以来、就職学生受難の時代が続いており一向に回復の兆しが見えて来ません。かつてはほぼ100%の就職率を誇っていた国立大学といえどもいまや厳冬期、まずは母校の就職状況をお知らせしましょう。

平成11年度卒業生学部別就職率
(平成12年3月31日現在)

| | | |
|------|---------|---------|
| 教育学部 | 男 94.0% | 女 93.9% |
| 教養学部 | 男 85.5% | 女 91.9% |
| 経済学部 | 男 71.3% | 女 71.1% |
| 理学部 | 男 69.3% | 女 61.1% |
| 工学部 | 男 68.9% | 女 67.1% |
| 合計 | 男 74.9% | 女 67.4% |
| 総計 | 71.1% | |

ご覧のように埼玉大学全体の就職希望者25名のうち職につけたのは、7割強にすぎません。

●相談室は大繁昌

一昨年の2月から大学の依頼を受けて、火・金の週2回、経和会の内藤副会長と私が就職相談室の相談員をつとめております。初期の頃は相談室の存在がなかなか伝わらず、相

埼玉県という大きな山を動かす県民運動の中心は、情報発信基地「百年の森テラス」を持ち、七千余名の教職員と学生を擁する埼玉大学が最適です。OBの力が加われば鬼に金棒です。

兵藤学長は常々ボランティアの精神は「力のある者は力を、お金のある者はお金を」とあるとおっしゃっています。経和会の諸兄弟には後者を特にお願いしたいと思っております。年会費は個人二千元、法人一万円。子孫のために絶大なご支援とご協力を切にお願い申し上げます。
(送金は郵便振替0014000155239百年の森づくりの会)

●ほとんど〓人生相談

とくに進路相談では一生を左右しかねないケースが多く、就職相談というより人生相談といっても過言ではないというのが実感です。研究室へ残るか就職するか、故郷へUターンするか東京で頑張るか、公務員か民間企業か、自己PRといっても何もない、初任給でメシが喰えるかどうか、など、まさに就職に関する問題です。最終的に決めるのは本人ですが、こちら真剣にならざるを得ません。

●素晴らしい先輩達

いまは買手市場ですから、かつてのように企業内リクルーターが活躍する場はなくなりましたが、就職のガイドブックには「OB訪問」が奨励されています。OBにコンタクトをとったら非常に親切に教えてくれたとか、人事へ繋いでくれるなど至れり尽くせりにしてくれたり、などという報告を聞くことが増え、嬉しくなります。なかには「けんもほろろでした」とか「厳しいことばかり云われて社会人になるのがイヤになりました」とかという報告もありますが、多くの先輩達は親切に対応してくれているようです。就職冬の時代」に凍えそうな学生達が先輩を頼って来たら、どうか温かく対応してやって下さるようお願いいたします。

●相談の内容

- 進路相談から入社試験対応のテクニックまで実に多岐にわたっています。主な内容は次の通りです。
- 就職活動のすすめ方
- 進路相談
- 業種研究・企業研究
- OB訪問の仕方

名簿刊行委員会からのお知らせ

経和会名簿刊行委員長・常務理事 中村 直行

経和会会員の皆様のご協力を得ながら会員名簿の改訂版制作に取り組んでおります。皆様のご協力に対し衷心よりお礼を申しあげます。

さて、ご参考までに、三月十五日時点での状況をお知らせいたします。

- 一 登録会員数 (大学院を含む) 七、二七二名
- 二 物故者数 九一名
- 三 不明者数 一、三六六名
- 四 外国在住者 五九名

お気付きのように、登録会員数のおよそ十八%の方の所在が不明となっております。現在、望月印刷社や会員の皆様の協力を得ながら精度の向上に鋭意努めております。

名簿の刊行で制作者泣かせのひとつがこの「住所未確認者」です。主な原因は、転勤・結婚・新居購入等による転居だ

と思われまふ。皆様へ送付した「住所未確認者一覧表」の中に「存知の方」がありましたら、同封の「情報カード」にてご連絡下さるようお願いいたします。もし今回の刊行に間に合わない場合でも、追補版または次回の名簿に役立てることにいたします。

ところで名簿購入のお申し込みはお済みでしょうか。私共「名簿刊行委員会」は一般の名簿業者と異なり、営利を目的としない同窓会正規の部会です。名簿の整備・刊行は同窓会活動の最も基本的かつ重要な事業であります。その費用は全て名簿の売上代金をもって賄おうと考えております。したがって一冊でも多くお買上げいただき、会の運営にご協力下さいませようお願いいたします。

前回の名簿第2号の刊行からすでに5年近くを経過しており、会員の増加・異動もかなりの数にのぼっております。この際お買い替え、または新しくお備え下さいますようお願いいたします。

内容はつぎの通りです。

●規格 B5判 約300頁

●収録 大学創立より平成12年3月までの卒業生全てを収録

●本文 全同窓生を卒業年次別に、氏名(旧姓名)・〒・住所・電話・勤務先・出身高校を掲載

●索引 現姓名・旧姓名の両方から検索可能な人名索引および業種別索引によって構成

いざという時の連絡帳として、旧交を温められる際の情報網、挨拶状・年賀状等の住所録として必ずや役に立つものと思えます。なおこれだけ豊富な情報量で頒価は四千円、送料は同窓会で負担いたします。

最後になりましたが、同窓会名簿刊行に当たり辛抱強くお付き合ひ下さった望月印刷の吉田様・天笠様、厳しい経済環境下にも拘らず、広告をご出稿賜った商店会や同窓生の皆様、大学当局の皆様、賛助金を拠出いただいた諸兄、そして経和会役員の皆様に厚くお礼申し上げます。

同期会紹介

4

埼玉大学と私

47年卒 田坂 敏幸

年末に大学時代の友人からクリスマスカードが届いた。もう何年も会っていない友人からだ。つい最近まで近くに勤務しているものと思っていたが、昨年アメリカへ赴任したのだという。親しい友人の一人も現在上海に赴任している。皆頑張っているなあと感心しながらも、埼玉大学を卒業してかれこれ30年ちかくが経ってしまったことに気づく。

大学を卒業してそれぞれ大学に対する思いは異なると思うが、率直に言ってしまうと埼玉大学に愛着を持って仲間は私のまわりにはさほど多くはない。大学を卒業して以来、大学との接点が少ないせいではなからうか。その点、私の場合は卒業以来、身近に大学の存在を感じる立場にいたことは誠に幸いなことである。

私に勤務する会社には先輩後輩合飲めない「ダルマ」等で盛大な酒盛りをひらいた。法研OB・弁護士・民事訴訟法非常勤講師伊藤正昭氏(現経和会会長)だ。民訴講義が月曜日第一時限にあり、府中のご自宅からだと早朝大変だからと、前日蒼玄寮に泊まって朝一番の責任を果たされるのが本来の目的ではあった。もともと、ぼろ畳すきま風の蒼玄寮に泊まって、麦五分入りの朝飯を食べる事を可能にしたのは、前後の盛大な宴会によって神経を麻痺させていたためかもしれない。しかし同室の寮生の中には試験前だと言いきりおびれて勉強計画が狂った被害者もいた。それにしてもわずか三名の学生のためにこれだけ情熱を注ぐ先生が存在したという事は、蒼玄寮、北浦和校舎という文化遺産そのものが醸成したとみなすことができる。

どんなに卒業生が小さくなくても皆さんが勤める会社に埼玉大学のOB会を作って、親睦をはかると共に、今後入社する後輩のために就職説明をおこなったり、お役に立つようではありませぬか。

こんな気楽で楽しい当社のOB会にも悩みはある。平成になってほとんど後輩が入社してこないことである。このままでは常盤会も先細りになる心配していたところ同じ常盤会のメンバーと極めて親しい経和会副会長の内藤さんと同じ副会長の中野さんは毎週大学へ赴き、現役学生の就職相談を行っているとのことである。

超長寿テレビ番組「水戸黄門」がリニューアルされたが、新シリーズについては賛否両論があるようだ。旧作の「偉大なるマンネリ」こそが作品の価値だったのであり、「史実に忠実」などというのは他の時代劇にやらせればよいことだ、というのが旧作支持者の声らしい。

主人公はじめ登場人物のキャラクターや葵の印象といった強力な狂言回しに材料があつてこそマンネリを逆手にとることができるとは、何となくはと思う。総会をキャンパスでというのもそうした思いもあつてのことであり、一人でも多くの会員にご出席いただきたいと願っている。そこで従来会報裏面の総会案内を見落したなどという声もあつたので、第一面の全てをこれに費やした。このほか今回は貝山学部長、奥山前学部長、菊池教授からそれぞれ年度替りのお忙しいところ快く原稿をご提供いただいた。また海外からの室井氏の寄稿をはじめ多くの方々のご協力により何とか第4号をまとめることができたことに感謝したい。

葵の印象を持たない編集子のため、今後は是非皆様のご協力を!

生時代とやら変わらぬ雰囲気であり、突然何十年ぶりに参加してもまったく違和感を感じさせない不思議なOB会である。もうそろそろ会の名前を付けようという提案しているが誰も腰をあげようとなしなところがある。大開基部らしいところでもある。期待しないで待つこととしたい。

その他、ゼミ(北川ゼミ)の仲間とも時々懇親をふかめておりお陰様で私の周りには常に大学のOB諸氏が多くおられる。今後は私自身も少しでも大学のお役にたてるよう頑張りたいと思っている。

編集後記

編集後記

わが青春の蒼玄寮

昭和四四年卒 山崎 道雄

私には、新潟県柏崎という田舎町から何の予備知識もなく入学した世間知らずの男だった。知る人もなくとありあえず住む所は学生課の紹介で浦和市郊外の食事つき下宿を決めたが、バス利用で一時間近くかかる不便なところ。半年くらい経って自分で教育学部近くの古いお宅の離れに引っ越した。しかし奨学金月八千円がおもな収入で、アルバイトも不安定な身で生活は楽ではなく、蒼玄寮入寮を真剣に考えた。何しろ蒼玄寮は物理的にきたない上に、当時活発だった学生運動の果でもあり、ノンポリにはとても近寄りた場所だ。しかし生活費の安さと、アルバイト情報供給力の魅力に勝てず、精神面でも入学後2年たつて洗脳に負けない自信もつたので、入寮を申請し幸いにも許可された。入つてみると確かに学生セクト間の争

りがたさを何でもないものにした最大の精神的支えだったような気がする。法研・工藤ゼミの活動で最も重要なものは、川口や飯能での法律相談である。先生を始め諸先輩方が入生を賭けるほどの情熱をこめて打ち込まれていたもので、現役学生といえどもいかげんな対応は許されな

い。この責任感と緊張感を体験した者にとつては学生セクトの争いが、なんと甘いものかと思えたものだ。蒼玄寮での日常生活の道具は、テレビ・電子レンジ等電化製品は勿論物でもすぐブレイカーが落ちたり、漏電火災の心配もあるので使う事は

困弊と言えば、わが部屋は思いもかけないゲストのおかげで、普段は